

第8回 国土文化研究所オープンセミナー

「地域力を再生する～コミュニティ創造は『粉末社会』再建の柱となるか～」

講演概要

1. セミナー概要

日時：平成25年11月22日（金）18時～20時

テーマ：地域力を再生する

～コミュニティ創造は『粉末社会』再建の柱となるか～

場所：日本橋浜町Fタワープラザ3階ホール

講師：金子 勇 特任教授

（北海道大学大学院文学研究科）



講師の金子先生

2. 講演要旨

(1)粉末社会(Powdering Society)とは

- ・ 細分化された社会関係のなかで、個人がパラパラになっている状態を「粉末社会」と呼んでいる。「粉末社会」では、共同生活を否定し、利己的で、自らの福利にしか関心を示さなくなることが問題である。
- ・ このようななか、学問として、地域コミュニティをどう立て直すか、研究を行っている。

(2)具体的に何が起きているのか

- ・ 内閣府による日本人の意識調査を見ると、近年はむしろ社会志向の割合が高まってきている。しかし、これは額面通りには受け取れない。
- ・ フランスは世界で唯一、少子化を増子化へと

転換した国であるが、一方でパラパラ化も加速していて、単純に他の国には学べないことが判る。

- ・ 一人あたり県民所得などの統計を見ると、マクロ的には日本には格差は生じていないと言える。「格差社会」という言葉が一人歩きしている面もある。
- ・ しかし、平均世帯人員や独居率などの統計によると、日本の家族は小さくなり、独居率の上昇、特に高齢者のそれにより、家族の力が弱くなって来ていると言える。
- ・ パウダリングのリスクは、範囲の広狭、人数の大小、期間の長短によって分類される。
- ・ こうしたリスクを解消するためのタスクとして使える社会資源には、人的資源、物的資源、財的資源、文化資源、コミュニティなどが上げられるが、なかでも人的資源としてのリーダーの存在は重要である。リーダーがいれば他の資源を使いこなすことが出来る。このため、場合によっては人為的にリーダーを置くことも有効である。
- ・ 社会的共通資本は使い方によっては地域の資源を増やすことが出来る。何が使えるか、どう使いこなすかの議論が必要である。
- ・ 都市においてコミュニティを創造するためには、殻に閉じこもった粉末社会の殻をいかに壊すかを考えることが必要である。
- ・ そのためには、小中学校の校区くらいの単位での「調べあい」、「触れあい」、「癒しあい」、「繋ぎあい」、「学びあい」、「広めあい」など、機会財としてのコミュニティ機能の向上が大切である。
- ・ コミュニティの基礎要件としては、「住まい」、「商店街」、「小中学校」、「医療機関」、「公共交通機関」、「交番」、「ガソ



ご講演風景



ご講演風景

リスタンド」、「郵便局」などがあげられる。これらがしっかりしている社会は何とかなる。しかし、放置をしておくと、この順番に消えていく。経験上、自治体を単位として人口 3,000 人を切ると、これらの要件は一気に崩壊する傾向にある。

- ・粉末化した個人にコミュニティが機能するのは、①橋渡し（bridging：外向け、外への拡がり）、②結合（bonding：仲間内、中身の強化）が基本である。これによって、個人が持つ没社会性（asocial）な態度を縮減していくことが必要である。

(3)地域力を再生するには

- ・地域力を向上するには、ものや施設などの「社会的共通資本」と、それらをどう使うかという「社会関係資本」をうまく組み合わせることが必要である。
- ・「調べあい」・・・などのコミュニティ機能を媒介として、人間関係をブリッジングする機能が大切となる。
- ・ブリッジングの考え方としては、共通の展望と帰属感を育むことである。その場合の架け橋の対象は「自分たちのような人々」と「自分たちと違う人々」の 2 通りがある。札幌市における福祉除雪の考え方は、後者になる。
- ・粉末化社会を克服するためには、どこにブリッジを架けるか、社会システムの方向性を決めることが重要である。また、人間を分散させないよう、恣意的にばらばらにしないことが大切である。

- ・そのためには、ソーシャルキャピタルが持つ橋渡し機能と結合機能をうまく活用する必要がある。
- ・こうした社会の存続と人間関係の維持をはかるためには、「個人の自由」の視点から社会を見ていくか、あるいは「社会システム存続」の観点から個人を見ていくか、どちら側から見ていくかの方向性を明確にする。

3. 質疑応答

(質問)

フランスの増子化の要因は何か？

(回答)

子どもが増えると、経済的支援と時間的支援の両面を受けられる。日本と比較すると、①CNAF（全国家庭金庫）という、企業が多くを拠出する潤沢な子育て支援ファンドにより、3 人目以降は支援が急増する（仕事をするよりも経済的なメリットが大きい）という露骨な誘導政策をとっていること、②消費税が高く国民負担率が高い分、国民に戻ってくる分も多いという税制面の違い、③婚外子の比率が多いという文化的な違い、などがあげられる。

(質問)

中央区には「コミュニティの基礎要件」はすべて揃っている。しかし、「助けてくれなくても良い」とする人が増えている。「粉末社会」となっているのか。

(回答)

ブリッジングは双方向のキャッチボールなの

で、一方通行的に助けるというのではなく、対象となる相手のニーズの多様性を踏まえ、断片でも良いから何かでつながっていき、楽しんでいくことが大切である。

(質問)

情報化が進んで、調べたり、つながったりするのもネットで出来るようになってきている。こうした情報化社会はコミュニティ再生にプラスと働くのか、マイナスとなるのか。

(回答)

高齢者は情報を使いこなせない。情報だけのつながりでは長続きしない。実際は足でかせぐ、手でつながるといのように具体的に動かないと力にはならない。



会場との質疑応答

4. おわりに

人口減少や高齢化が急速に進む中、各地で地域社会の崩壊が生じ、人々が孤立化しています。こうした地域の不安定化は、わが国全体の停滞にもつながっていきます。

今回のセミナーは、このような地域社会が細分化され、個人がパラパラになっている状態「粉末社会」の名付親である金子先生をお招きし、古くて新しい存在であるコミュニティの持つ機能やその重要性を地域の皆さんと考えることを目的として開催したもので、会場には 57 名の方にご参加いただくことが出来ました。

会場での質疑にもありましたように、中央区のように人口も多く、コミュニティの要件はほぼ揃っているような大都市においても、粉末社会と言える状況を見ることが出来ます。それに対して、ソーシャルキャピタルを活用してお互いにつながっていくことの大切さ、それも多様で双方向のつながりの大切さを改めて認識することが出来たように思います。

株式会社建設技術研究所では、このセミナーで得られた知見を今後の企業活動に活かしていくとともに、引き続き「暮らしに役立つ眼力を養う」ための機会としてのオープンセミナーを企画し、皆さまとともに現代社会の様々な問題を一緒に考えていきたいと思っています。